

兵庫県立有馬富士公園における生き物企画展

ひとはく連携グループ 里山レンジャー

はじめに

私達は主に兵庫県立有馬富士公園で里山（棚田や里地を含む）の再生保全などの活動、生き物（主に昆虫類）の生態・生息調査、観察会などのワークショップ、小学生などに向けた環境学習などを行っているグループです。これらの活動を行う中で、私達がやってみたい！と思うことが出てきました。それが「展示」です。知り合いから、幅及び奥行き約120センチ、高さ約170センチの（台座を含む）で中に樹のディスプレイの入った大型展示ケースを譲ってもらったのですが、そこには大きな壁が。ボランティアグループである私達には「展示ができる場所がない」ことです。私達の悩みを知った県立有馬富士公園の管理者である公園協会の課長が、パークセンターのロビーを提供してくださいました。それが、企画展の始まりです。

内容

- ・2011年、2012年、2013年の夏：大型展示ケースにおけるクワガタムシ・カブトムシほか、樹液に集まる昆虫およびカマキリなど
- ・2011年、2012年、2013年の秋：有馬富士公園に生息する直翅目の展示
- ・2011年冬～：有馬富士公園に生息する魚類の展示
- ・2012年冬～：ゲンゴロウ類、タガメおよびその他水生昆虫類

方法

クワガタ・カブトについては、大型ケースをそのまま利用。直翅目以降のガラス水槽の展示は、子供がたたく等で割れると危険であることから、全て、アクリルケースを使用。また、展示する生き物や展示方法を考慮し、2分割や3分割、高さのある展示ケースを設計発注。展示ケースを置く台も子供たちが見やすい高さのものを統一して購入。

最初は展示ケースに昆虫名などを貼っていたが、見やすさなどを考慮し、別途、展示ケースを囲うようにパネルを取り付け、そこに、名前や解説などを記載するように改良。

展示内容は当初、主に有馬富士公園で採集できるものとしていたが、最新のゲンゴロウ展については、近辺での採集ができないため、購入しての展示となった。

結果

クワガタ・カブト展では、「この公園で捕まえることはできますか？どこで採れますか？」という虫採りとしての声が多く、直翅目もこんなのがいるのだという程度の見学者が多かった。

魚類展では子供から年配の方まで幅広く見ている方を見受けられた。ゲンゴロウ展では、魚類同様に子供から年配の方まで、多くの方が興味を示すと同時に、「私が子供のころには、ゲンゴロウなんて一杯いたのに」など、子供と親、祖父母などとの会話が弾んでいる姿も見受けられた。

まとめ

クワガタ・カブトなどの展示の時などは採集したいという方が多かったようだが、ゲンゴロウの展示をするころには、ゲンゴロウがいなくなった理由など、環境に目を向ける方も見られるようになった。里山の再生をすることにより、生き物の溢れる環境を目指していた当会の目的がなくなった展示となった。今後の課題として、昆虫類が活動しない冬の展示内容をどのようにするか、ゲンゴロウなど、購入して展示したものについては、繁殖方法を身につけ、できれば幼虫から展示などに繋げ、より一層、見る人が少しでも環境について興味を持つ展示へと繋げたい。